

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム まきびの丘

日付 平成17年12月22日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験12年

評価調査員 在宅介護経験17年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

施設長をしている経営者が、こだわっている自信を持って言うのが、¹水と環境を大事にしたグループホーム作りである。昔、野山で虫取りをしたり、小川で魚とりをした思い出を利用者の人にも思い出せるような環境づくりに取り組んでいる。丘の上にある広い敷地に建てられた2ユニットの平屋造り、2つのユニットの間には中庭やウッドデッキがあり、自由に行き来出来るようになっている。そこには、椅子とテーブル、観葉植物の鉢植え、メダカとカエルの水槽などがあり、利用者にとってのんびりと楽しく過ごせる空間が出来ている。愛犬も早く利用者の仲間入り出来るよう今訓練所で特訓中とのこと。

まだ定員に達していないこともあって、1つのユニットに利用者も職員も集まり生活することが多い。この日は皆でカラオケを楽しんでいた。歌の好きな人はマイクを持って楽しそうにからだ全体動かして歌っている。上手に歌えない人も、職員と一緒に頑張って歌っている。とても和やかに過ごしている。食事やおやつの中にはそれぞれのユニットの席で食している。両ユニットの利用者は、いつも仲良く自然に交流している。現在は自立度の高い人が多いので、団体行動や自立した行動が出来ると思うが、これから先には利用者のレベル低下に備えて、一人ひとりに役割を持たせたり、積極的に何事にも行動できるように声掛けをしてあげて欲しい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

まだまだ一人で何事も出来る人が多いのに、自分からは進んで何かしようとする人は少ない。暇をもて遊ぶ人が多い。一人ひとりに役割を持たせてあげ、やりがいいのある楽しみを持たせてあげて欲しい。居室に閉じこもりの人にも声をかけ、時には利用者に寄り添って話を聞き、利用者の気持、希望、本音を聞き取ってあげて欲しい。グループホームを立ち上げたばかりなので、まだ記録のとり方やファイル管理等まだまだ工夫をしてもらいたい。

III. ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

広い敷地に広々とした建物、その中に自由に歩きまわれる大きなリビング、ウッドデッキ、中庭が作られている。利用者はその時の気分により自分の好きな空間を居場所とすることが出来る。また、全員でカラオケや体操をする時間も参加は自由なので、したい時にしたいことをすることも出来る。それがホームの基本である。

職員は、好きな場所で思い思いのことをして過ごしている利用者に対し、助言や見守りのケアを中心に行っている。時には施設長自ら利用者とウッドデッキで話を聞いたり、一緒に外周を歩いたりして利用者の気持を和ませている。現在の利用者はまだ自立度が高い人が多いので、自分の時間を自由に使いこなしているが、いずれは何かしようとする気力を自ら出せなくなることを考え、利用者一人ひとりの能力を考え、毎日の家事や作業の役割を与え、楽しみとして取り組めるように心がけ、充実感や達成感を持たせてあげることがその人のこれからの健康維持や機能維持に役立ち、安定した生活を送るのに必要なことではないでしょうか？

記録類は必要最小限にすることは勿論、利用者との触れ合いを大切にしようとする方針は今まで通りに大事にしていく欲しい。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、

施設長がこだわっている環境の一つにホームの前にある広い農園がある。農園は無料貸し出しをしている。ホームの利用者と借主との交流ができればとの思い、もう一つホームの裏山も今開発中でいずれは果樹園予定地だとの事、利用者の喜ぶ顔が浮かぶ。

利用者の中には話し相手や囲碁の相手を望んでいる人もいる。老人会、ボランティア、その他色々な機関に声掛けをし、訪問してもらうことを考えて貰いたい。家族の訪問が多くホームの現状を理解してもらっていることは、オーナーにとっても職員にとっても仕事の支えになっていると思うので、家族も招く行事を計画し、家族同志の連携、ホームと家族との連携をとるために家族会を作ること力を入れてみてはどうでしょう。ホームの「たより」の発行も地域の方に読んで貰えるように頑張って作ってみては？

この広大な楽園を育てると同時に、ここに地域の人が集まり楽しんでもらい、利用者と一緒に一時を過ごせる環境を是非造ってもらいたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	昔懐かしい開かな生活環境の中で、利用者が静かに穏やかに充実した日々が過ごせるように支援していこうとしている。そのために、広い敷地の中庭、ウッドデッキを設け、自由に利用者同志が触れ合える場所を大切にしている。利用者本人や家族にも楽しんでもらえる場所として、色々な果実の木も植えることを考えている。また、利用者の残存能力を出来る限り長期に亘って衰えさせないために、家事や畑仕事、カラオケ等さまざまな試みが行われているが、利用者一人ひとりに合った役割を見つけてあげ、楽しみながら充実した喜びを感じて過ごせるよう穏やかな日々を過ごさせてあげ、利用者を始め家族にも満足感や安心感を持たせてあげて欲しい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

敷地、建物共に広く、利用者が色々な居場所を選択することができ、自由気ままに過ごせるようにウッドデッキ、中庭が作られている。メダカやカエルも水槽の中で飼われている。リビングには食卓の外にソファやコタツ、大きな縁台等も置かれ、自分の好きな場所で過ごすことができる。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		